政務活動費　活動実績報告書

令和７年７月１５日古賀邦彦

件名	**黒木斎場、日向神ダム、花宗用水水利施設、山下地区排水機場視察研修**
使途	1 調査研究費　　2 研修費　　3 要請・陳情活動費
金額	
期日	令和７年７月１４日（月）
場所	黒木斎場、日向神ダム管理出張所、花宗用水水利施設、山下地区排水機場
目的	老朽施設及び災害に備えた治水対策についての現地視察を行い、今後の施策立案の参考とする
参加者	古賀邦彦、原田英雄、小山和也、久間寿紀、水町典子、坂本治郎、花下主茂
概要	○黒木斎場は、昭和４７年４月稼働で５３年が経過しており、市内斎場の中では、最も老朽化した施設である。火葬炉は稼働後１５年で大規模改修を行い現在も順調に稼働している。一方、市民が利用する待合室は和室１部屋、テーブルとイスのある１部屋はあるが、ソファーのあるロビーやテレビの備えがなく、最小限の設備のみとなっている。火葬炉の作業室を出た外に冷房設備のあるプレハブが備えられていたが、設置は昨年度ということだった。 ○日向神ダムは、昭和３７年４月に完成した福岡県管理の最も古いダムである。建設の目的は、1. 洪水を防ぐ 2. 田畑を潤す 3. 電気をつくる　本市に甚大な災害をもたらした平成２４年７月の九州北部豪雨の際は、被害の拡大を防ぐ役割を果たしたとの説明を受ける。ダムの貯水量は、洪水の発生する梅雨期及び台風期には水位を下げて容量の確保をしてきたが、気候変動による影響を考慮した対応が今後の課題であるとのことであった。 ○花宗用水の水利施設は、起点である花巡堰（はなめぐりせき）から花宗堰まで１１カ所の水利施設を車中からも含め視察を行った。古くは３４０年前に先人たちが備えた施設で、今を生きる私たちに恵みを与え続けている。さらに、水利をめぐり川の右岸と左岸の人びとの壮絶な水の奪い合いの歴史の一端を感じることができた。 ○山下地区排水機場は、平成２４年７月の九州北部豪雨により甚大な被害を受けた山下地区の浸水被害の解消のため県の事業で設置された。２基の排水ポンプが備えられ、毎秒５トンの排水能力があるとのことだった。
所感	黒木斎場の建て替えは急を要することをあらためて認識するとともに、八女西部斎場を含め全市的な斎場運営のあり方の整理が早急に必要だと考える。 気候変動の時代に対応できる水の管理をどう進めていくのか。山林の管理問題をはじめ、農家の減少、耕作放棄地の増加による治水管理の脆弱さが問題になっている。今後も、これらのことについて、問題意識をもって取り組んでいきたい。